



38. interuniversitäres Sommerseminar für deutsche und japanische Kultur

参加者募集のお知らせ

先が見えない社会 —— Gesellschaft in Erschöpfung?

どうもこのところ何か世界がおかしい —— 漠然とこう感じる人が増えつつあるようです。明るい未来がなかなか語れなくなって、いろいろな問題が見えてきています。身近なところでも、経済力が落ちてきていて子育てなんか考えられないと感じる若者が増えています。少子高齢化が進む中、空き家の数が目に見えて増えつつあり、消滅危機も語られる地方では農業の将来が危ぶまれています。一極集中する東京では保育園不足が深刻で、多くの人が働きたくても働けません。そうした社会福祉を充実してくれるはずだった消費税増税は延期されましたが、国の借金が既に 1000 兆円を超える事態を放置していて、みなさんが年金生活を迎える頃の日本の国家財政は大丈夫なのでしょうか？

世界を見回してみても、世界のことより自分の国のことの方が大切という主張をするトランプ氏のような候補者が、世界中で登場するようになりました。ヨーロッパで深刻化しているのは、難民問題です。紛争によりシリアなどの国家が壊れると、そこに暮らせなくなった人々がやむなく故郷を捨てて難民化します。大量の難民が到着した多くの欧州諸国では、遅かれ早かれ受け入れの限界を意識せざるを得ず、国内世論が二分されます。難民受け入れ政策を堅持するドイツでも、メルケル首相への批判の声は強まりつつあり、AfD とカペギータといった右翼勢力が台頭始めています。



社会に余裕がなくなると、きれいごとを言うてはいられません。自分たちの生活を守るためには、難民が押し寄せないように壁を作ったり、外国人に職を奪われないよう排外的な政策をとったりすることが必要だ、と考える人の数も増えていきます。ヨーロッパでも、難民受け入れ拒否を宣言する国が増えると、欧州連合も分裂の危機を抱えざるを得ません。近隣諸国に対する憎しみを煽る言説は、日本でも日常的に聞かれるようになってきています。

外国人排斥の問題は、ドイツではかつて、ナチスによるユダヤ人迫害で負の頂点を迎えました。その反省から、「人道に対する罪」といった考え方が導入され、日本を含む先進国はいずれも、人権や民主主義といった基本理念を培ってきました。歴史学や法学などの人文・社会諸科学も、西欧社会の「共通の価値 (gemeinsame Werte)」を尊重しながら発展してきました。でも、世界各地で今や、「共通の価値」そのものが問い直され始めているようです。



私たちの多くは身近な生活の問題で精一杯です。なかなか先が見えない社会の中で、私たちは押し寄せてくるさまざまな問題とどうつきあっていけばいいのでしょうか。ドイツ語を学んできた私たちは、こうした事態を前にして、ぜひドイツの若者たちといろいろなコミュニケーションをして意見をぶつけてみたいと思います。今年の夏のインターウニでは、私たち自身にかかわる重たいテーマを、いつものようにいろいろな具体的なテキストや素材をもとに、ともに考え、知恵と元気が出るように大いに語りあってみたいと思います。

ゼミでは、小人数グループで、事前に配布されるテキストについてじっくり討論し、その後、議論の内容を全体会で報告してさらに全員で討論します。裏面の「参加資格」にも記したとおり、ある程度のドイツ語力は必要ですが、多少足りないところがあっても意欲と好奇心さえあれば大丈夫、とも考えています(わからなければ事前に実行委員会にお尋ねください)。議論に際して「何か言いたいことがあってもどう言えばいいのかわからない」、あるいは「ドイツ人の発言がよくわからない」といった場合には、日本語も使って発言や理解を助けあうようにしていきます。自由時間には、山中湖でポート、湖畔でジョギング、サイクリング等のスポーツで思いっきり気晴らしすることができます。ドイツ語力も考え方もさまざまな日本やドイツや韓国からの新たな友人達と、大いに楽しく議論してみましよう。多くのドイツ人学生にも来てもらったの、ドイツ語漬けの充実した5日間が待っています。積極的な参加を期待しています！

夏のインターユニは1978年以来毎年夏休みに開かれている合宿ゼミナールです。ドイツの文化・社会に関心を持つ日本人とドイツ語圏の学生・教員たちが、全国のさまざまな大学から集まって(*interuniversitär*)、一つのテーマについて日独の文化を比較・対照しながら(*interkulturell*)、専門の枠を超えて(*interdisziplinär*)、ドイツ語で話し合うゼミナールです。また、参加者が、国籍や文化の違いはもちろん、教師・学生・社会人といった立場の違いや世代差・性差を超えて互いに学びあう(*Inter-Lernen*)という姿勢を大切にしています。現代のさまざまな問題についてドイツ語のテキストも読みながら、ドイツ語母語話者や韓国からのゲストもまじえて、できる限りドイツ語で大いに議論してみましよう！

記

- ・ 日 時： 2016年8月2日(火)～8月6日(土)
 - ・ 場 所： 山中湖畔「レイクサイドイン富士波」
(〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 1910 Tel: 0555-65-8258、<http://lakeside-inn.jp/>)
 - ・ 参加費： 37,000円 (4泊5日の宿泊・食事を含む。交通費は含みません。現地集合となります。)
 - ・ 参加資格： ドイツの文化・社会に関心を持ってドイツ語を勉強している学生・院生、および社会人。
(3年程度以上のドイツ語学習歴があることが望ましい。専攻は問いません。)
 - ・ 募集人数： 25名程度
 - ・ 申込締切： 2016年7月18日(月)
(それ以降はお問い合わせください。それ以前でも募集人員に達し次第、締め切ります。)
 - ・ 申込先： <http://www.interuni.jp/anmeldung> の申込みフォームから
 - ◆ 上記申込みサイトが使えない場合や、申し込みしたのにメール連絡がない場合、またゼミについての質問がある場合等は、実行委員会宛に連絡してください。連絡・問い合わせ先は <http://www.interuni.jp/mail> です。
 - ◆ インターユニについて、ゼミのコンセプトや過去のテーマなど、詳しいことは<http://www.interuni.jp/>をご参照ください。
 - ◆ 今回のインターユニは、筑波大学・ボン大学・高麗大学が共同運営している日独韓共同修士課程 (TEACH プログラム) と共同主催で行います。(<http://trans.hass.tsukuba.ac.jp/ja/teach/>)
- 講 師 (予定)： 足立信彦 (東京大学)、相澤啓一 (筑波大学)、Matthias Pfeifer (静岡県立大学)、尾形圭 (ハイデルベルク大学)
ほか (参加講師についての最新情報はホームページをご参照ください。)
- 主 催： インターユニ実行委員会 (代表：相澤啓一)、日独韓共同修士課程 TEACH プログラム
- 協 力 Goethe-Institut (ドイツ文化センター) Deutscher Akademischer Austauschdienst (ドイツ学術交流会)

	Dienstag, 2.8.	Mittwoch, 3.8.	Donnerstag, 4.8.	Freitag, 5.8.	Samstag, 6.8.
8.00		Fr ü h s t ü c k			
9.00		THEMA: I Textarbeit + Diskussion in Gruppen	THEMA: II Studentischer Tag Diskussion in Gruppen	THEMA: III Textarbeit + Diskussion in Gruppen	Evaluation Präsentation der Gruppenarbeit vom 4.8.
12.00	Anreise	Mittagessen+Pause	Freier Nachmittag	Mittagessen+Pause	Nach dem Mittagessen : Abreise
14.00	Einführung	Gruppenarbeit (am Protokoll) Protokolle der Gruppenarbeit + Diskussion		Gruppenarbeit (am Protokoll)	
15.00	Eingangsvorträge Brainstorming			Protokolle der Gruppenarbeit + Diskussion	Protokolle der Gruppenarbeit + Diskussion
17.00	Abendessen				
19.00	Film+Diskussion	Abendprogramm	Abendprogramm	Schlussfeier!	
21.00	!!!???	Kneipe / Nachtruhe	??!!!		